苦しみを通して見えてきた大切な「支え」

(昭和46年生)

中央区・甲東支部
(さがらパース通りクリニック)　**小齊平智久**

鹿児島市医師会会員の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

この度，年男としての寄稿依頼を賜り，誠に恐縮しております。

今年48歳。人生の折り返し地点を過ぎましたので，これまでの半生を振り返ってみたいと思います。

私は今まで二度，死にかけました。

一度目は幼少期です。

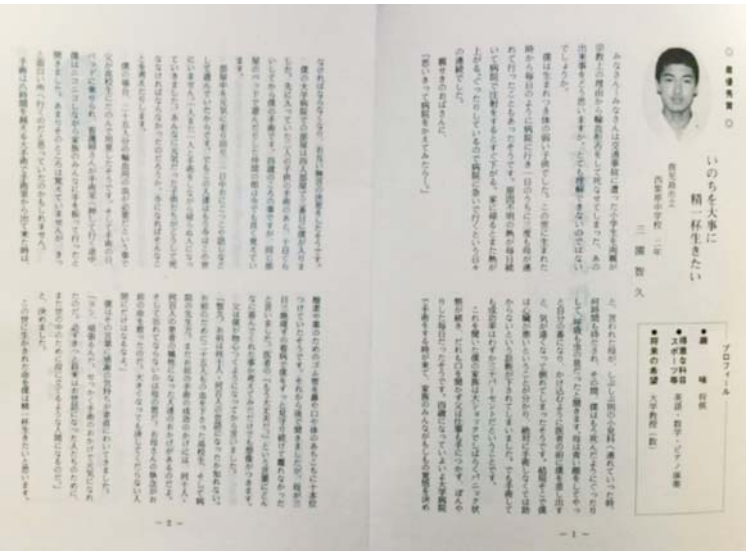
発熱が毎日のように続き，近所の病院に通院するも原因不明。伯母の勧めで，当時加治屋町にあった河野小児科を受診したところ，すぐに心雑音を指摘され，鹿児島大学病院で精査した結果，先天性心疾患（ファロー四徴症）でした。

今でこそ死亡率数%のファロー四徴症ですが，昭和50年当時は5歳まで成長しないと手術できない，相当難易度の高い手術だったようです。

母親から「大学病院の先生から手術の成功率は30%って言われていたのよ」と，耳にタコができるほど聞かされました。

多くの方々のお力添えのおかげで30%の確率を生き残った経緯を，「少年の主張」弁論大会で発表した『いのちを大事に精一杯生きたい』。これがまさかの最優秀賞を受賞し，鹿児島県代表に選出されました（旧姓：三園）。

「将来の希望」の欄に『大学教授』と書いてあってププッと笑っちゃいますが，この弁論大会を機に，周囲から「将来は医師になってはどうか？」と勧められるようになり，私自身も「せっかく救っていただいた命，今度



いのちを大事に
精一杯生きたい

西紫原小学校　三年
三園　智久

プロフィール

昭和60年 『少年の主張』 鹿児島県大会

は私が医師になって恩返しをする番だ」と決心したのです。

26歳で念願の医師になり，その後，妻との間に2人の娘も授かりました。

しかし，いつしか初心を忘れ，自分の身体を労わることも忘れ，妻の心配をよそに「人脈こそ大事」と毎晩のように呑み歩きました。

二度目に死にかけたのは，そんな生活を送っていた平成30年2月のことです。

クリニック開業に向けて関係者と打ち合わせをするも，全く頭に入ってこない。身体もだるい。微熱も続く。顔も足もむくむ。時折意識も飛ぶ…。

ヨタヨタしながら同級生医師のもとに辿り着いたら，なんと血圧も血糖も200オーバー。その他の採血結果も惨憺たるものでした。

同級生からキツイ一言。「コサちゃん，あんた医者でしょ？何でこんなになるまで放っておいたの？このままだったら確実に死んでたよ！」

本当に大変だったのはそれからでした。内服に注射に食事制限に運動療法に。開業の話は流れる。次の勤務先を急いで探さないといけない。両親からは「せっかく助かった命なのに！」と責められる…。

自業自得とはいえ，色んな苦悩が一気に押し寄せてきて，途方に暮れ，そして後悔しました。

「多くの方々に生かされた命を大事にしよう」と子供のころ誓ったはずなのに。

自分の不甲斐なさに失望しました。

未来予想図を描けなくなり，生きがいすらも失いかけました。

もしもこの時，悪徳商法に出会っていたら，藁をもすがる思いで壺やら印鑑やら買っていたかもしれません。

でもこの時，私が出会ったのは，一般社団法人エンドオブライフ・ケア（以下，ELC）協会理事の小澤竹俊先生のお言葉でした。

『人はただ単に苦しむのではありません。苦しむ前には気付かなかった大切な「支え」に気付くのです』

心に沁みました。

振り返ると私には幾つもの「支え」がありました。

いつも味方でいてくれる妻，「パパ～」と懐いてくれる娘たち，体調を考慮した働き方をご提案くださる現在の職場（社会医療法人博愛会），活躍の場を与えてくださる牟田さん・濵田さん・水口さん・太田さん・井上住職，いつも温かく迎えてくださる平野さん・上村さんをはじめシビックカフェの皆さん…。そして兄ー。

思い起こせば，兄と絶縁状態になったのは今から13年も前のこと。

きっかけはうちの両親との大ゲンカでした。

突然家を飛び出し，それ以来音信不通になった兄のことを，私は恨みました。

娘たちには「兄は遠いところにいる」と言ってきました。

風の便りに兄夫婦の間にも子供が2人いることを聞き，「久々に会ってみたいな」とも思いましたが，離れた時間の長さがそれを阻みます…。

今回思い切って兄の誕生日に「おめでとう」メールをしてみました。するとまだメールアドレスは変わっておらず，すぐに返信がありました。

「ありがとう。今度の日曜日会おうか。家においで」と。

当日は，妻と娘たちも連れて行きました。

最初は少しぎこちなかったかもしれない…。

でも，空白の13年間を語り合い，子供たちの成長を喜び合ううちに，いつしか打ち解けていました。

緊張していた娘たちも，初めて会った『いとこ』と，お互いの学校のことや友達のこと，家庭のことなどで盛り上がっていました。

兄もこの13年間，私のことをずっと気にかけていたことを知り，素直に嬉しかったです。

平成30年10月，兄の自宅にて

兄のピアノ演奏，13年ぶりに聴きました。ベートーベンの『月光』。

絶縁状態になる前，自宅でよく弾いていた曲。相変わらず上手かった…。

思わず涙がこぼれました。

正午ごろ訪ねたのに，気が付けば夕方になっていました。

『兄』という新たな「支え」を得た，記念すべき一日でした。

その後の私ですが，通院治療＋食事制限＋運動療法により半年足らずで約7kgの減量に成功しました。体調もだいぶ戻り，採血結果も随分良くなりました。でも，どんなに摂生しても腎機能だけは改善しませんでした。

それでも今穏やかな気持ちでいられるのは，常に心の中に「支え」を感じているからです。

「今度は私が，苦しんでいる人の支えになりたい」と，ELC協会認定援助士及びファシリテーターの資格を取得しました。

取得して気付いたELC協会の魅力。

それは，小澤先生の全てを包み込むような柔和な語り口もさることながら，ELC協会から提供される「わかりやすく，まねしやすい」コンテンツにこそあると。

「このコンテンツは，何も『人生の最終段階』だけではなく，普段の生活のいろんな場面で活かせる。もっと鹿児島の皆さんに知ってほしい。今鹿児島でコンテンツを学べる場が無いのであれば，私たちで学べる場を作ろう」と，同志の濵田さん・吉留さん（きいれ浜田クリニック）と共に『ELC薩摩』を立ち上げ，平成30年10月19日，12月17日学習会を開催しました。今後も随時開催予定です。

そして「私がそうであったように，小澤竹俊先生のお話をじかに聴けたら，きっと琴線に触れる方がおられるはず」と，無理を承知で鹿児島講演を依頼したところ，有難いことに二つ返事で引き受けてくださいました。

（下記，【小澤竹俊先生講演会】をご参照ください。）

苦しんでいる人の支えになりたいと思っている方，これから支える役を担う方，今まさに大きな苦しみを抱えて支えを必要としている方など，できるだけ多くの方に受講していただきたいです。

最後に，年男である私の今年一年の抱負を述べたいと思います。

- 『ELC薩摩』の一員としてコンテンツの魅力を発信する
- ここ鹿児島で『野うさぎ』(*)を増やす
- いのちを大事に精一杯生きる

(*小澤先生は，2日間のELC援助者養成基礎講座を受講され日本各地で実践されている同志を，『野うさぎ』に例えておられます)

【小澤竹俊先生講演会】
住み慣れたまちで，人生の最期まで過ごせる社会を目指して
～苦しむ人の前で,あなたは何ができますか？～

日　時：平成31年2月9日㈯　14時～17時
場　所：西本願寺鹿児島別院本堂
募集人数：(最大)500人
参加費：500円
共　催：ELC奄美，ELC喜入，ELC薩摩，鹿児島医療介護塾，みま～も・かごしま，縁起でもない話をしよう会（妙行寺），ビハーラ鹿児島
お問い合わせ：みま～も･かごしま事務局長
水口(y.mizuguchi@mima-mo.link)